「日々の理科」（第 273 号） 2015（H27),-3,31

「サクラ満開」

お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

サクラの語源は「咲くら」だそうだ。咲く花は他にもたくさんあるのに、サクラだけを「咲くら」と呼んだのは、やはり日本人にとって、最も重要な花だからだろう。２～３日高原にいて、東京に戻ってきたら、サクラが満開だった。もう大宮あたりの車窓から、サクラ・・・サクラ・・・サクラ・・・あらかじめ咲く日を相談しておいたとしか思えない。どこの公園や学校、並木にも爆発的に咲いている。

職場の近くの春日通りも、サクラが満開・・・まさに見頃の咲きっぷりだ。今日は風が強く、すでに相当散ってしまっている。

アップで撮ろうと思ったら、風で枝がゆれて、枝がレンズにぶつかって、完全にピンボケになってしまった。しかし、私は嬉しかった。低学年の子どものように、サクラが自分から「撮って撮って」とカメラにぶつかってくるように思えたからだ。

前回、サクラが「綻んだ」時に上った、歩道橋の上からも眺めてみた。これもまた美しい。春日通りがまさに「春の日の道」に見える。この一番よく咲いている樹は、私の勤務する小学校の敷地・・・給食室の裏側にある。校舎の表側にないのが残念である。

最後にサクラの樹を見上げてみた。サクラの花意外に何も見えない。枝という枝に、花・・・花・・・花である。空すらサクラのすき間にちょっとあるだけだ。これを、まさに「満開」というのだろう。入学式まで持ってくれればいいのだが・・・　　（つづく）